

薬草だより

橋本竹二郎の植物画紹介

その8

樋口 剛央*

スイカズラ (スイカズラ科)

Lonicera japonica (Caprifoliaceae)

生薬名: 〈つぼみ〉金銀花 (キンギンカ), 〈葉・茎〉忍冬 (ニンドウ)

花期は5~7月。咲き始めは白いが徐々に黄色くなる。1つの枝に白花と黄花がつくことも珍しくなく、金銀花の由来である。つぼみや葉・茎を薬用部位とする。日本、中国、朝鮮半島の山野に自生するつる性低木で、忍冬の名は常緑性に由来する。木質の茎はつる状で、若いときは毛が生えている。葉は対生し、毛は表面に少なく、裏面に多い。忍冬は古くから民間薬、入浴剤にも利用され、清熱、解毒、排膿の薬能がある。主に化膿性炎症性疾患に用いられ、紫根牡蛎湯、治頭痛一方等に配合される。金銀花はさらに解毒に優れるとされ、荊防敗毒散、五物解毒散、千金内托散、銀翹解毒散等に配合される。



センキュウ (セリ科)

Cnidium officinale (Umbelliferae)

生薬名: 川芎 (センキュウ)

花期は秋。枝先に小さな白い花を複散形状に多数つけるが、結実はしない。寒冷地に適し、主に北海道、東北地方、長野県で古くから栽培される中国原産の多年生草本である。通例、湯通しした根茎を薬用部位とする。中国薬典では日本とは異なり、*C. chunaxiong* を基原としているが、中国で栽培した *C. officinale* の輸入も行われている。根茎は塊状で、茎葉の枯れ始める秋に掘り起こす。血流改善、鎮痛、消炎作用等があり、温経湯、温清飲、葛根湯加川芎



辛夷、芎帰膠艾湯、芎帰調血飲第一加減、荊芥連翹湯、五積散、柴胡清肝湯、酸棗仁湯、七物降下湯、四物湯、十全大補湯、十味敗毒湯、清上防風湯、折衝飲、疎経活血湯、当帰飲子、当帰芍薬散、防風通聖散、抑肝散等、婦人薬を中心とした数多くの処方や生薬製剤に配合される。

チャノキ (ツバキ科)

Camellia sinensis (Theaceae)

生薬名: 茶葉 (チャヨウ)、細茶 (サイチャ)

花期は10~12月。しばしば枝先を伴う葉を薬用部位とする。葉は枝に互生し、5~7cmの長楕円形で縁に細かくて小さな鋸歯がある。表面はやや光沢があり、葉脈でくぼみ、その間が丸く盛り上がり波打つ。常緑樹であり、中国南西部、インド、ベトナムが原産といわれ、現在はアジアを中心に熱帯から温暖帯に広く分布している。日本には奈良から平安時代初期にかけて、中国へ留学した僧侶によって伝えられたとされる。静岡、鹿児島県を中心に秋田以南の各地で栽培され、主に嗜好品として加工される。利便性から高さ1mほどに刈り込まれるが、野生化すると7~8mにも達する。紅茶に用いられる変種のアッサムチャ (*C. sinensis* var. *assamica*) の葉は15~35cmと大きく、高さも刈り込まなければ20m近くまでになる。滋腎明目湯、川芎茶調散に配合される。



橋本竹二郎

松浦薬業株式会社顧問

来歴

1931年東京に生まれる。牧野富太郎氏らと親交。津村研究所(現ツムラ)、名城大学薬学部、富山大学和漢薬研究所のほか、複数の製薬会社の顧問等を経て、現在に至る。

主な著書

「立山路の花しるべ」(共著、巧玄出版、1977)、「北陸の自然誌」(里見信生 編著、巧玄出版、1979)、「目で見る薬草百科-見分け方・採取時期・薬効と使い方」(永岡書店、1984)、「薬草・花を描く-ハーブドローイング植物画を楽しもう」(日貿出版社、1994)ほか